

大田区自立支援協議会だより第18号

平成31年3月発行

【編集・発行】大田区自立支援協議会

【事務局】大田区立障がい者総合サポートセンター [電話] 03-5728-9133 [FAX]03-5728-9136

「大田区自立支援協議会」は、障がい児・者の地域での自立した生活を支援するため、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者が参加して定期的な協議を行い、地域での課題について情報を共有し、連携を取りながら具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。

〈今年度の自立支援協議会活動〉

今年度の活動のキャッチフレーズ「きなりのくらしへ～つながる・わたす・ひろげる～」は、どのくらい実現したのでしょうか。前号でご報告した「全体合同部会」もそのひとつでした。「全体合同部会」で、多くの専門部会委員が交流をし、つながる実感をもてた協議会は、従来の5部会ごとの取り組みからもっと自由に、地域課題への検討を始めています。

相談支援部会

- 個別支援会議からつながった
＝1回目 地域移行・地域生活支援部会、就労支援部会、当事者、区内関係機関
＝2回目 介護保険サービス事業者・当事者

こども部会

- 「発達支援マップ」の検証でひろがったわたしたち
- 重症心身障がい児の生活を知ることにつながった
- 他部会やネットワーク体とつながった

就労支援部会

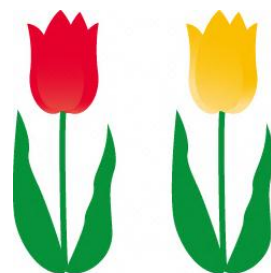
- 福祉的就労のあり方を考えることでつながった＝B型事業所、家族
- 若者支援とつながった、ひろがった＝区内フリースクール
- 公開セミナーでひろがった **2月**
「福祉的就労とまちづくり・まちおこし」
竹村 利道氏（公益財団法人日本財団）

地域移行・地域生活支援部会

- 地域移行を検討するための見学会でつながった
＝重症心身障害児放課後等デイサービスグループホーム（体験型・企業運営型）精神科病院、ピアサポーターも運営するB型事業所
- 公開勉強会でひろがった **12月**
「地域を巻き込む・地域でつながる」
菅原 健介氏（株ぐるんとびー）

防災部会

- 防災訓練参加でつながった・わたしたち・ひろがった
＝ヘルプマークをPRし地域交流
- 公開勉強会でひろがった **10月**
「地域での災害に備えてパート2」防災ワークショップ
鍵屋 一氏（跡見学園女子大学）



とびだした



協議会！

相談支援部会×介護保険

今年度の相談支援部会では、「障害福祉サービスと介護保険サービス」がひとつのテーマでした。両方のサービスを同時に使う場合、あるいは一方から他方へサービスが移る場合、老障介護や何らかの課題を抱えた方が複数いらっしゃる場合…。相談支援における双方の連携は必須であり、待ったなしです。

部会では、11月7日（水）「障害のある方が65歳を迎えたときに」をテーマとした個別支援会議を行いました。当事者、介護保険サービス関係者等オブザーバーの方々にご参加いただき、部会委員も合わせた総勢40名ほどがグループに分かれて、課題の抽出や解決方法を検討し、次のような意見が出ました。

- 障害福祉制度と介護保険制度の考え方が違うので、支給量が減った場合でも支援者の捉え方が異なる状況があること。
- 障害福祉と介護保険の支援者で横のつながりや支援経験の積み上げが望まれること。
- 介護専門支援員と相談支援専門員が協力して支援方法を考えていく必要があること。

今回は、当事者の意見を聞く貴重な機会になり、様々な立場の人が参加して多様な視点で意見交換ができ、参加者からも有意義だったとの感想が寄せられました。そして、今回の「つながる」きっかけからその後の双方の研修や連絡会等の場面で連携が始っています。

ひろがった！ つながった！

こども部会×ネットワーク会議

こども部会は、大田区児童発達支援地域ネットワーク会議と「避難訓練」について12月14日（金）に合同研修を行いました。「どの分野」でつながっていくことがよいのか？を多角的に模索している時、「避難訓練」の方法について、迷っていらっしゃる事業所が複数あるという課題が見つかったこともあり、今年度は避難訓練を含めた「防災」に焦点を当ててみました。

参加者をグループ分けし、次のような取組について情報交換を行いました。

- 事業所でどのような備えをしているか。
- 事業所での避難訓練の頻度や方法

情報交換を通して、今すぐにはできないことのヒントや「防災」をキーワードに地域と繋がれることなどを共有することができました。

災害時、弱い立場になりやすい子どもたちです。緊急時には地域と「つながって」課題を解決しなければなりません。これをきっかけに、また別の切り口からも「つながる」を期待していきたいと思えます。

防災部会×地域防災訓練（町会との連携）

防災部会は、11月17日（土）田園調布南町会による防災訓練（嶺町特別出張所管内）に参加をしました。会場は、密蔵院（東急多摩川線沼部駅より徒歩3分の寺院）の境内と講堂を使用して開催されました。防災部会からは、車いすを利用している委員や聴覚障がい、視覚障がいのある委員も訓練に参加をしました。

開会式では、防災部長から地域に住む障がい者が被災した場合やヘルプカードへの理解などについてお話する機会をいただきました。お寺の講堂ではAED訓練や応急救命救急などの講習、境内では大田区の新型起震車に乗車して、震度7の揺れを体験することができました。他にも消火器使用訓練や長い棒2本と毛布で簡易担

を作り搬送する講習、地域の消防隊による放水訓練、参加者同士で協力し合い、甘口・中辛・辛口の三種類のカレーを調理して食べる炊き出し訓練なども行われました。境内には参拝客用のトイレがありますが、車いす対応の多機能トイレも設置されているので、障害のある方も安心して参加をすることができると感じました。

今年度は、特別出張所にお願ひし、町会単位の防災訓練への参加ができました。そして、田園調布南町会では、このように当事者委員と地域の皆様との交流を進めることができました。また、さぼーとびあの地元であります入新井特別出張所から部会へのご参加も得て、今後、町会の皆様とつながっていければと思っております。



11月17日 田園調布南町会防災訓練（密蔵院）に

〈第2回本会を終えて〉

大田区自立支援協議会副会長 山根聖子

10月26日に行われました第2回本会は、①運営会議、各専門部会の報告②前半期の地域課題・解決策、全体合同部会の振り返り、次年度協議会の方向性について意見交換をおこないました。

特に討議では参加した全委員から活発な発言がありました。大田区総合防災訓練等にブースを設け参加した防災部会委員からは、ヘルプカードを地域の方々に手渡し理解啓発に努めたといった、わたす・ひろがることを連想するエピソードが紹介されました。また、こども部会と就労支援部会の合同部会、相談支援部会と関連する部会による合同部会の検討内容を本会の場でも共有し、教育から福祉へつなぐ「18歳問題」、福祉サービスから介護保険へわたす「65歳問題」に関して意見が多数あがりました。所属する部会の枠を越え、家族・学校・事業所等それぞれの日頃の取り組みから幅広い意見を聞くことができました。

全体合同部会については、交流の目的と成果を全員で確認し、今後どのように会議を実施するのかということ、あわせて委員の任期に関して討議しました。そのなかには、協議会としての継続性と委員の意識の持ち方を問う貴重な意見もありました。次年度の協議会の方向性については、今後とも会議等で十分に話し合いを重ねていくことが会長の本会総括のなかで述べられました。

このように第2回本会は、今年度の協議会テーマに沿い、大田区の課題を検討すること、意見交換に重きをおいた新しいスタイルとなりました。



平成30年度大田区自立支援協議会 第3回本会開催のお知らせ

日時:平成31年3月15日(金)13時30分~15時45分

会場:障がい者総合サポートセンター 5階多目的室

「本会」では「自立支援協議会委員」によって、自立支援協議会としての協議を行っています。年3回公開で開催しています。

第3回本会では、各部会のこの1年間の活動報告や来年度の協議会についての検討などを行います。障がいへの配慮が必要な方は3月8日までにさぽーとびあにご連絡ください。

*どなたでも傍聴可能です。会場の都合で先着20名様までとなります。